

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

雨に咲く紫陽花のごと華やぎて少女の二人バ
スを待ちおり
安永 山下たか子

我がための終の栖ときめし家はひなの節句
に重機が入りて
宮園 金子フム子

陽が落ちて解体照らす街灯の幾夜続くや終の
栖を
古閑 井上てつ子

大地震に祠潰されみ仏はかなたの社に相祀
られる
安永 守住 孝子

遠き友重き手術に打ち勝った待ちし知らせ
に歓声挙げる
安永 川野 光子

ひさびさに会いたる友は細く見ゆ亡夫を送る
雨の夕暮れ
小谷 今吉マキ子

みどり児の笑みは不思議な力もち吾もいつし
か微笑みており
惣領 島田 廣子

畑帰り折れんばかり胡の木に腰を降ろして暫
し休みぬ
上陳 永田己智子

正座して将棋さす児の眼差しは勝負師のごと
凜として沓え
宮園 島 みつぎ

この年は誇りも捨てて恥も捨て一代限りの夢
を楽しむ
惣領 小森英美子

地割れした更地の庭にまた一つ地震に負けず
槌の音響く
赤井 増岡 伸禧

俳句

河野 全平 選

家失せて更地彩る夏野菜
父の日や厨うき立つ鯛づくし
赤井 増岡 伸禧

虫食いのキャベツ抱えて友来たる
麦刈の動き目で追ふコンバイン
古閑 井上てつ子

湯の町の川面に躍る鯉のぼり
早苗田や薄く濁れる水鏡
赤井 西山恵美子

楠若葉テクノ団地や飛行雲
枇杷うれた早くおいでと里便り
小谷 今吉マキ子

見おろせば里の薄暑や地震の痕
一句鑑賞
平田 城 陶子

五月雨や大河を前に家二軒
与謝 蕪村

狂句

田上 富岳 選

上を目指して 家中の期待荷が重い
赤井 増岡 酔粹

上を目指して リュックの中身捨てらした
古閑 井上てつ子

上を目指して 上京したが三日間
辻の城 岸良真由美

上を目指して 楽しいことは後回し
赤井 吉村 富子

上を目指して ぐんぐん伸びて突っぼがす
赤井 今吉美英江

上を目指して 一もくさんにまっしぐら
赤井 今吉美英江

そう来たか 気の無いそぶりしてみましょ
赤井 鈴木 駒

そう来たか まだ間に合うぞここにしゅう
古閑 井上 誠二

そう来たか 解体褒めて急がせる
赤井 増岡 酔粹

そう来たか 手の内読んで切り返す
赤井 増岡 酔粹

狂句次号の課題「修理してかり」「予想外」

益城の文化財
町文化財保護委員会



上 砥 川

重福寺跡

船井川の堤から約100mが奥へ進むと、阿弥陀堂があります。堂内には「衣更の阿弥陀石仏」と小さな石仏が3体祀られています。堂外には層塔・宝塔・五輪塔など石造物の一部や地蔵もあり、周辺の竹藪を進むと、猿田彦石碑もあります。その奥が字地名の「寺山」です。これら阿弥陀堂の石造物は、かつて寺山にあった重福寺を構成した石造物と思われる。その中の「層塔」には寛喜2(1230)年の制作年と現世安穩・利益が読み取れます。また「衣更の阿弥陀石仏」の右肩には、宝治2(1248)年と刻してあります。このことから、鎌倉時代初期に重福寺は寺山に開基されたと推測されます。

安土桃山時代になり、天正13(1585)年、島津軍の城攻略や天正17(1589)年の小西氏によって、重福寺も荒廃したと思われる。

重福寺は開基されて約350年の間、地域の人々の信仰を集め、現世